

平成 28 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	脳・生活・人生の統合的理解にもとづく思春期からの主体価値発展学
領域代表者	笠井 清登（東京大学・医学部附属病院・教授）
研究期間	平成 28 年度～平成 32 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、ヒトにだけ顕著に長くある思春期に注目し、主体価値という高次機能に的を絞って、脳神経科学、認知科学、精神医学、心理学、情報科学、教育学など多くの分野から取り組む文理融合型の新たな研究領域の創成・発展が期待できる提案である。主体価値の概念は人間の生き方やコミュニティのあり方にも関係していることから社会的要請の大きい課題でもあり、既存の学問分野に収まらない挑戦的領域としての発展性も期待される。新学術領域研究「精神機能の自己制御理解にもとづく思春期の人間形成支援学」（自己制御精神）（平成 23～27 年度）で確立した思春期における自己制御を手段として活用し、どのように主体価値を育成しウェルビーイングな人生を過ごすかということに主眼をおいた研究として、今後の発展が期待される。</p> <p>本研究領域によって、人間の精神行動を思春期における脳の形成過程から解明するという新しい学問領域の創生が期待され、その成果は、現代の若年層が抱える精神の理解、健康増進、情操教育に寄与することも期待される。</p> <p>研究体制については、4つの計画研究から組織され、全体としての目的、各計画研究の役割、領域内の有機的連携も明確になっており、計画の推進に無理がない合理的な体制が整っている。また、豊富なマネジメント実績がある領域代表者と各計画研究代表者の間に緊密な連携があり、領域マネジメント体制も妥当といえる。さらに、領域代表者の本研究領域に対する意欲的な姿勢から、十分なリーダーシップが発揮されるものと考えられる。</p>